

# 全学科 外国人教員採用へ

## 静岡大工学部

### 英語で授業増やす

静岡大工学部(浜松市中区)は11日、2014年度に外国人教員を全5学科で採用し、英語による授業を増やす方針を発表した。学部独自の取り組みで、ものづくりに精通したグローバルな人材の養成を目指す。地域の産業界が求める海外の現場で活躍できる人材の育成に役立ていく。

べた。

将来的には外国人教員の比率を10%程度まで高め、英語だけで単位取得できる修士コースも設ける考え。日本人学生の海外派遣、留学生の受け入れも現状の2〜3倍の年間各200人程度に増やす。09年から工学部単独で留学生受け入れプログラムを実施しているベトナム、インドネシアなど、アジア地域を主なターゲットに研究交流を深める。

新たに採用する外国人教員は各学科1人の計5人を予定し、工学系の専門研究者や教官から募って日本語の能力は問わない。英語による授業や技術者に必要な英語コミュニケーション教育、日本人教員への英語支援に取り組んでもらう。14年1〜4月に国際論文誌や海外大学などを通して公募する。採用者には1人につき3年間で約1千万円のスタートアップのための研究費を用意する。

工学部の在籍教員約190人のうち外国人は現在6人いるが、英語圏出身ではなく、日本語で授業を行っている。佐古猛学部長は海外ビジネスの現場で英語が多用されている現状を挙げ、「現地でインシアチブを取れる工学系のリーダーが求められている。英語力と国際的教養、タフな精神力を養いたい」と述べた。

